



■国別輸入シェア

平成 20 年 1 月～10 月期は全国で 26 カ国から、横浜港で 16 カ国から輸入しています。
 国別輸入シェアは、全国ではナイジェリア、パラグアイ、アフリカのブルキナファソからの輸入が多く、横浜港ではパラグアイ、中国、スーダンが上位を占めています。胡麻は、主に熱帯から亜熱帯に属するアジア、アフリカ、中南米の地域で多く栽培されていることから、これらの国々からのシェアが高くなっています。【輸入統計より】

●胡麻の品種

世界各地で栽培されている胡麻は、それぞれの地域で長年栽培されてきた在来品種が多い。
 また各国では品種改良により多く収穫でき、品質のよく栽培しやすい品種も育成している。
 アメリカで育成され、南米などでも栽培されている品種は、中の種子が熟してもサクが開かない種類があり、胡麻の成熟後に、コンバインで一気に入り取られている。

産地	白胡麻	黒胡麻	金胡麻
国産 高リグナン含有種	まるひめ：母親には極めて成熟期が早い韓国の在来白胡麻「Korea39」、父親に「関東 11 号」を用いて交配し、育成。※但し、生胡麻の状態では、ニガ味が強く胡麻の風味が薄い。	まるえもん：母親に「関東 11 号」、父親には耐病性と耐寒性に優れる岩手県在来の黒胡麻「岩手黒」を用い、交配、選抜。耐寒性を付与するために寒冷な気候条件となる岩手大学滝沢農場において現地個体選抜を加えられた岩手大学との共同育成品種。セサミンが多いがセサモリンは少ないことが特徴。	ごまぞう：(茶褐色) 国産胡麻の高付加価値の目的のために種苗登録されたが、寒冷と病害に弱くまた色が褐色(茶)である点より普及には至らない経緯をもつ。TOYAMA 16 と H65 の交配により栽培。
国産丹波		大粒で黒光りする光沢が特徴。産地の土壌・盆地特有の気候が胡麻の味覚を底上げしている。農産品としての圧倒的ブランド力有り。	
国産喜界島	かねてよりサトウキビの裏作として胡麻栽培が行われていた地域。種子は島種と呼ばれる喜界島で伝わる品種で小粒でくすみがち。しかし、ここ数年生産者の協力も有り種皮レベル、粒の大きさ、実の入り方などは著しく向上。しかし、南国ということもあり自然災害の影響も受けることも多々。		
国産西脇			土壌レベルは丹波同様。地域も丹波地区の南東に位置。生産地としては今年が 4 年目の取り組みとなるが国内随一の結束力を誇る地域。生産も金胡麻の中ではトップレベルの地域。もちろん食品としての味覚も伴っている。



日本への胡麻の輸入総量は毎年約 16 万トン、その 99%以上が輸入胡麻。 世界の胡麻はその色も表情もさまざまです。

国別輸入シェア

全 国				横浜港					
国 名	数量 (MT)	構成比	輸入額 (百万円)	構成比	国 名	数量 (MT)	構成比	輸入額 (百万円)	構成比
ナイジェリア	45,131	27.2%	7,675	21.9%	パラグアイ	5,060	28.5%	1,505	36.7%
パラグアイ	30,433	18.3%	8,870	25.3%	中華人民共和国	4,021	22.7%	876	21.4%
ブルキナファソ	18,694	11.3%	3,382	9.6%	スーダン	3,650	20.6%	672	16.4%
スーダン	14,350	8.7%	2,697	7.7%	ミャンマー	1,745	9.8%	282	6.9%
タンザニア	11,282	6.8%	2,756	7.9%	ポリビア	869	4.9%	251	6.1%
その他	45,997	27.7%	9,718	27.7%	その他	2,398	13.5%	511	12.5%
計	165,887	100.0%	35,099	100.0%	計	17,743	100.0%	4,096	100.0%

海外の胡麻と国産胡麻（和田萬商店取り扱い胡麻より）

産地	白胡麻	黒胡麻	金胡麻
グアテマラ	大粒で比較的色彩目が揃っている。しかし味はどちらかといえば淡泊な部類に入る。(品種 R198)		
ポリビア (写真は有機胡麻)	一般品と有機品とがある。比較的大規模生産者が多いため産地情報が胡麻としてはわかりやすい。	生産量としては大きな産地とは決まて言えない。(産地としてはトライアルレベル) 尚、種皮はダブルハスク	
パラグアイ	一昨年(2010年)の実績として日本国内で約6万トンの輸入実績あり。(国内年間消費量;当時約14万トン)		
スーダン	胡麻発祥の地ともいわれるこの地(ナイル川上流域)。日本国内流通は現在アブスーファ種といわれる種がほとんどとなっている。		
ミャンマー産 黒胡麻		国内流通の黒胡麻の流通量の大半を占める産地。品種はノーマルブラック(くすみがちの種皮)と比較的粒が大きいサイエンスブラックの2種が現在流通している。味は黒胡麻の中では淡泊な部類に入る。尚、種皮はシングルハスク。	
ミャンマー (リグナンリッチ 黒ごま)		上記の一般胡麻と比較してリグナンを3倍程度含有する、高含有種「リグナンリッチ黒ごま」は2010年に種苗登録済みの種で、現在限定した地域で栽培。	
ベトナム		以前(5~6年前)は中国と並ぶ黒ごまの生産地だったが、近年ではアフラキシン由来のシブバックが頻発し日本国内での輸入量は激減。尚、品種はシングル・ダブル共にある。(ここ数年輸入実績なし)	
トルコ			脂質が多く豊かな香りと風味は、まさに胡麻の王様。しかし、トルコ国内でも日本同様生産地での高齢化が深刻な問題となり生産地拡大の開発を進めている。よって、同じトルコ産ということと同じ特徴とみるのは早計。

